

平成27年度第1回長井市振興審議会 議事録

開催日時：平成27年5月28日(木) 15時00分 ～ 17時00分

開催場所：交流センターふらり 視聴覚室

出席者：21名(委員15名、事務局6名)

■振興審議会委員 北川忠明委員、大山勲委員、渡部秀一委員、板垣洋一委員、横山寛道委員、高橋郁子委員、加藤弘二委員、勝見裕子委員、勝見英一朗委員、齋藤道郎委員、梅津雄治委員、小林美和子委員、梅村律子委員、中井晃委員、長沼真知子委員
(出席15名、欠席3名)

■事務局 内谷重治市長、鈴木一則総務参事
総合政策課 竹田利弘課長、桐生芳弘主幹、白幡史生主査、今野透係長

傍聴者：1名

【次 第】

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命(再任委員・新任委員)
- 3 長井市振興審議会 会長等の選出
- 4 諮 問
- 5 あいさつ
- 6 協 議
 - (1)今年度の進め方について(資料1)
 - (2)地方創生の取り組みについて
 - ・地方創生について(資料2)
 - ・地方版総合戦略策定方針(資料3)
 - ・地方人口ビジョン策定方針(資料4)
 - (3)その他
- 6 報 告
 - ・平成26年度市民アンケート調査結果について(資料5)
 - ・重要事業要望の内容について(資料6)
- 7 その他
- 8 閉 会

【議事録】

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命(再任委員・新任委員)

市長から再任委員3名、新任委員6名へ委嘱状を交付した。
- 3 長井市振興審議会 会長等の選出

長井市振興審議会条例第4条の規定に基づき委員の互選によって、北川忠明委員が会長に選出された。
会長職務代理者については、条例第4条第3項の規定に基づき北川会長から横澤泰雄委員が指名されたが、横澤委員が欠席だったため、会長預かりとして次回改めて指名、承認いただくこととなった。

4 諮 問

市長から振興審議会へ諮問した。

5 あいさつ

○内谷市長

本日は公私ご多忙のところ、今年度の第1回振興審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

振興審議会は、長井市の執行機関にとって最高の諮問機関であります。第五次総合計画の策定にもご尽力をいただき、たいへん素晴らしい総合計画を作ってくださいました。ただいま今年度の諮問をさせていただきましたが、重要なのは、この計画の進行管理をしっかりしていくことです。初年度である平成 26 年度の取り組みを検証し、皆様からご意見を頂きながら、平成 27 年度も総合計画の主旨に基づいて施策を執行してまいります。

本日の諮問のもうひとつは、地方創生に関わる内容です。国からは努力目標として、長期にわたる人口ビジョンと総合戦略の策定を求められています。将来の推計人口は、2040 年に国は 1 億 500 万人、山形県は 84 万人、長井市は 1 万 9500 人となっています。このままでは市町村が半分くらいなくなるということで、地方創生の取り組みが始まりました。予算措置を見ても国は地方創生に力が入っています。このなかで、地方では地域資源を生かして長井ならではの施策を講じる際に、国からの支援があるとされていますが、地方自治体の知恵比べとも言えます。第五次総合計画は国の総合戦略の方向性とも一致していますので、さらに具体的な施策について長井市の総合戦略に盛り込んでいきたいと思えます。この総合戦略等については、市役所内の本部会議や有識者の会議で案を考えて、振興審議会に諮りたいと考えています。

皆様には、活発なご議論をいただき、ご指導、ご鞭撻をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

○北川会長

振興審議会会長を仰せつかりました北川でございます。今、内谷市長からお話をいただいたとおり、今年度は2つの項目について諮問を受け、審議していくこととなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度、日本創生会議のレポートで、消滅可能性都市が話題になりました。20 歳から39歳までの女性の人口が今から 30 年後に半分になる自治体のことで、山形県では約8割の自治体が消滅可能性都市と示されました。長井市は入っていませんが、安心できません。しかし、けして不安になってもいけません。第五次総合計画で掲げたように、安心安全に住めるまち、しあわせを感じながら住めるまちを目指していく必要があります。

大学も自治体と同じですが、国は大学改革を進めたところには財政支援をしますということになっています。また、大学も地方創生に貢献せよということで、これまで以上に、優秀な人材を育成して地域に返していく、地域を支える人材を育成することが求められているところです。地域をより良くすることを考えていくという点で、大学も地方自治体も同じ方向を向いています。

委員の皆様には、活発にご議論いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

6 協 議 [議長＝北川会長]

(1)今年度の進め方について

資料1に基づき事務局から説明。

(北川会長)

第2回の審議会で、地方人口ビジョンの案と地方版総合戦略の案の審議を行うということです。また、第3回の審議会では、行政評価の結果について審議するということです。委員の皆さんから、今年度の進め方についてご意見やご質問はありますか。

(委員)

第3回の審議会についてお聞きします。昨年度の審議会での行政評価の結果の反映まで一年間空くという点について質問しましたが、2月に行政評価の結果について意見をしたとして、どのような効果を期待しているのか教えていただきたい。

(事務局)

26年度の事業の評価は、7月から10月まで行う予定。翌年度の予算に反映させていきます。2月の審議会開催時期の前倒しも検討します。

(委員)

26年度の評価を28年度の予算編成に生かすということでしょうか。

(事務局)

28年度の予算も含めた事業に生かすということです。

(委員)

PDCAを考慮したうえでの評価だと思いますので、齟齬がないように進めていただきたいです。

(内容市長)

26年度の決算については9月の定例議会で承認をもらいます。その時点で評価を出していますので、28年度を含めた事業に生かすとすれば、第3回の審議会は10月頃に開催させていただくことがよろしいのかなと思います。もう一度、開催時期については検討させていただきたいと思います。なお、第2回の審議会では人口ビジョンと総合戦略の案が示される予定ですが、その後、場合によっては9月頃の開催も追加で可能性があるということでご承知いただきたいと思います。

(北川会長)

総合計画の進行管理についてのご指摘がありました。これに関連して、審議会の日程については、今後改めて調整させていただくということでした。

そのほかにご質問などはいかがでしょう。(質問等なし)

(2) 地方創生の取り組みについて

・地方創生について(資料2)

資料2に基づき事務局から説明。

・地方版総合戦略策定方針(資料3)

資料3に基づき事務局から説明。

・地方人口ビジョン策定方針(資料4)

資料4に基づき事務局から説明。

(北川会長)

ただいま事務局から説明があった内容につきまして、ご質問やご意見はございますか。

(委員)

人口ビジョンについて、大事なのはどういう施策を講じればどうなるかという点だと思います。仮定に基づく推計だけではなく、具体的な施策の結果、それが80%達成できたならどのくらいの人口になるかを示すのが必要ではないでしょうか。

(事務局)

人口ビジョンと総合戦略を同時に作るのが、その問題点を解消する策です。戦略において具体的な施策を示しながら、それを講じると人口がどうなるということでビジョンに反映させていく。そのように進めていきたいと思っています。

(委員)

長井だけではないと思いますが、若い人の晩婚化から非婚化へという流れにあるなかで、長井の現状としてはどうなのか。結婚したい人がいるができない状況があります。長井市として何かできることはいいのか。ぜひそれを探してほしい。

(内谷市長)

晩婚化・非婚化の原因はなかなか単純ではないと思います。人口ビジョン・総合戦略の策定に際して、2040年の人口を19500人になるといわれているところを22000人にするという目標を先に掲げる方法もありますが、いま庁内の議論の中で、移住定住の施策などによって5年間で50人などという積み上げで人口を考えていこうとしています。本部会議のメンバー全員で、こういう施策をしていくべきというものを明日まで出すことにしています。結婚に関しては、重要なものとして住宅があります。子どもが小さな家庭には住宅をある程度安く提供するという施策などが考えられます。

移住定住の関係では、雇用創出が大事だと思っています。頑張っている市内企業を支援して、いかに雇用を増やせるのかを個別に考えていく。その積み重ねの政策が必要だろうということです。

そういった個別具体的な施策の提案なども委員の皆様から頂戴したいと思います。

(委員)

KPI(重要業績指標)というより具体的な目標の積み重ねが必要だろうと思います。市役所の若手職員の意見や議論をしたものを本部会議でしっかりと吸い上げて、期待的なことばかりでなく具体的な施策を盛り込んで総合戦略にしていきたい。

(内谷市長)

本部会議で必要な施策を出し合ったあとに、幹事会のメンバーでさらに詰めたり、新たなものを加えたりします。さらに、各課や全職員から意見を求めていきたいと思っています。そして、7月頃に市民説明会や意見募集を予定していますが、市として考えている内容をご説明したあとで市民の皆さんからご意見をいただく形にしていきたいと思っています。

(委員)

若手職員の意見を踏まえて策定していくのは良いことだと思います。その若手職員の方々がどんなプロセスで考えていくのかに興味があります。市役所の中だけではなく、ぜひ市民の若い人とも話をしたりしながら、作っていったほしいなと思います。

(委員)

庁内の議論の場に、必要な場合に必要な市民や外部の方に入ってもらって意見を聞くという形がよいのではないのでしょうか。小林委員のご意見を解決するひとつの方法だと思います。

(委員)

山形工科短大の生徒たちもいろんな提案をしています。たとえば、空き家の活用やまちなかをランタンで明るく灯すアイデアなどを提案しています。外部の意見を抽出する際には、このようなアイデアを市民から広く募るということで、まちづくり企画コンペのような形として、併せて市役所から施策を発表することで市民への周知も図る場とすると、単に説明会という形ではなく、より深く市民の方にも伝わるのではないのでしょうか。

(委員)

結婚できる環境の整備などは、当事者である20代～30代の主観的な考えを反映させていくことができたらいいなと考えます。20代～30代の女性がいかに住みやすいまちをつくるかが、今後のまちづくりには必要だと思います。若い人から意見を聞く場所があり、市役所の若い人と市民の若い人が一緒に考えて意見を施策に反映できると良いなと思います。

(内谷市長)

今回の総合戦略は、具体的な施策の積み重ねも必要となります。若者が残らないのは進学や就職の選択肢が少ないことが主な要因だと考えます。特に長男長女以外は戻ってこない人が多いという実態があります。

総合戦略は、まちづくりという面ではなく行政施策により作っていくという性格があります。そこで市役所の管理職の責任で考えていき、さらに若手も含めて全職員から意見を吸い上げることとしています。個別に意見を出してもらうのではなく小グループで考えてもらうということをしていきたいと思います。

スケジュールの関係もあり、個々の団体等と意見交換をしていくのは難しい部分もありますが、市民の皆さんのご意見やアイデアは広く募る方法を考えていきます。

(委員)

現状分析と仮説検証が一番大事だと考えます。20代～30代の未婚の方の結婚願望、結婚や出産ができない理由などの分析で、ケースバイケースで戦略を作っていく必要があります。こういった分析がせめて20代～30代女性に絞って出てくると、一番力を入れていくべき施策が何かが見えてくると思うので、そういった分析を見てみたいと思います。

(北川会長)

人口政策は20年後にならないと成果が出てこないものですが、今回は5年で何らかの施策に取り組むということで難しさがあります。そのようななかで、しっかりとした現状分析のもとで、具体的な施策を入れ込んだ戦略を作っていくということと、庁内の若手や女性、市民の若手や女性の意見を聞いて取り入れていってほしいというご意見や要望でした。

(委員)

市役所でデータを揃えるのは難しいと思う。それよりも、たとえば委員の会社で社員の方の状況はどのような状況かなどをお聞きできれば、ある程度の調査になると思うがいかがか。

(委員)

今、いる社員のうち中年男性で独身は15人程度。独身女性はほとんど彼氏がいます。また、離婚経験がある女性社員も多い傾向にあります。これは男女のミスマッチによるものなのだろうと思います。

(委員)

仕事に一生懸命になりすぎるあまり、結婚を躊躇する女性が多いのかとも思っていました。そういうことではないということでしょうか。

(委員)

そういうことではないように思います。

(北川会長)

人口推計していくときに、数字だけではなくて、実際の現状を踏まえていく必要があるということだと思います。

(委員)

人口減少は、戦後70年のいろんな要因があって進んできたのだと思います。長井はすごく今恵まれていると感じます。これまでは全国一律のまちづくりが進められてきたが、今はまちの個性が求められています。長井は自然が豊かでそもそもコンパクトシティ。それをどう活用していくということだと思います。人口減少を食い止めるのはいろんな戦略や施策が必要で大変ですが、魅力あるまちづくりはできます。神社仏閣の健康などへのご利益やいわれのようなものをまとめて、外部から人が来てもらうような魅力の作り方も地方創生には必要です。住んでいる人が安全で安心して、豊かさを感じながら暮らしていける地域を作っていければいいのかなと思っています。

(北川会長)

人口減少が問題になっているが、これにはまさに総合的な戦略が必要で、長井の資源を生かす、特性としてのコンパクトシティを生かす、また活用されていない魅力を生かす、という総合的なご意見でした。

(委員)

子育て支援について以前NPOで調査した結果、悩みを抱えて相談するところがなく、結婚したのにうまくいなくて離婚することもあったようです。そのような悩みの相談ができる場所などがなければ、結婚しても離婚してしまうこともあるので、本部会議のなかでも子育て支援の担当部署の方を入れて、検討していったほうがいいです。

(内谷市長)

本部会議の本部員については、参事職をすべて入れています。子育て支援関係では、厚生参事が入っています。総合戦略の柱について、今のところの方向性として、教育でいこうと考えています。ほかに負けないものは何かといった場合に、長井は教育と子育てを併せてすごく良いまちだ、というふうに特化させていこうと思っています。ここに都市機能や雇用、住宅施策、農業、再生可能エネルギーなどを組み合わせていこうということです。

幹事会には、子育て推進の担当者や女性職員を入れて具体的に考えていきたいと考えています。

(委員)

交流に関して、今朝農業委員会で伊佐沢にサトイモを植えてきました。10月に大田区に行き、長井の牛肉とそのサトイモで芋煮を作り、つや姫を炊いて交流会を開催します。地場産品を持っていくほか、次の機会には大田区から長井に来ていただいてお祭りに参加してもらうなど、交流を進めていきたいと思うので、そういった交流の観点も考慮していただきたいと思います。

(北川会長)

たくさんのご意見・ご提言、ありがとうございました。総合戦略等はこのご意見を踏まえて、本部会議などで議論を進めていただきたいと思います。

(3) その他

(北川会長)

その他の協議事項について、何かございますか。(なし)

それではこれで協議は終了いたします。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

6 報 告

・平成26年度市民アンケート調査結果について(資料5) 資料5に基づき事務局から説明。

・重要事業要望の内容について(資料6) 資料6に基づき事務局から説明。

7 その他 (なし)

8 閉 会 (17:00)

以上